



【新型コロナウイルス対策】

- ・入場が時間制になります。
- ・1教科30分の滞在時間です。
- ・出発前の検温、マスク着用、ハンカチご持参下さい。

小学生のうちに中学生の学習内容を予習

小学校のときは、ほとんど全教科をひとりの先生が教えてくれる。だからある程度は、生徒ひとりひとりの能力や性格、家庭環境などを考慮して指導することが可能かもしれない。

だが、中学生になると学科ごとに先生がかわる。英語など新しい学科も加わると、学習内容も格段にふえる。中学校に入って、授業についていくのが辛くなる生徒が多くいるというのは理由のないことではない。

数学に限ってみても、小学校時代の算数と中学校の数学とでは、その内容において雲泥の差がある。マイナスの世界も出てくるし、なじみのない文字式もふんだんに登場する。内容が盛りだくさんだけでなく、授業の進め方も早い。よほど小学校での算数の力がしつかりと身につけていないと、新しい授業内容を消化することができず、理解が曖昧なまま授業はどんどん進むから、ついには落ちこぼれてしまうことにもなる。

一般に、数学が苦手な生徒ほどテストの前の勉強で数学にかける時間は長い。一夜漬けをしようにも、それ以前の理解が不十分だから、付け焼刃ではなかなかうまくいかない。いたずらに時間をとられて、しかも効率は悪いという情けないことになってしまう。

ところが、公文式で小学5年生の前半のうちに方程式に進んでおけば、小学卒業までに中学3学年分の内容（G教材、H教材、I教材）を学習することは十分に可能になる。つまり、小学生のうちに中学課程の数学の予習ができるわけだ。

小学生のうちに中学校の予習をしていればどうなるか。授業内容はすらすらと理解できるし家庭での勉強時間もぐんと少なくてすむ。公文式で予習をして中学に進んだ生徒たちは、「学校の数学なんて簡単だよ。宿題なんか、休み時間にサッとやれちゃうからね」と口を揃えて言う。テストの前だけほんの少しおさらいをすれば十分だと胸を張る。ちょうど学校の授業が復習になっているわけだ。数学の勉強に時間をとられないですむという時間的な余裕で、彼らは他学科の勉強や、読書やクラブ活動などに思う存分、時間をかけることができる。

8月の教室日

日	月	火	水	木	金	土
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

10日 山の日

9月の教室日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

21日 敬老の日 22日 秋分の日



りんどう

トライアル 実施中♪

〈1週間無料体験してみませんか?〉

算数・数学、国語、英語

☆小学校入学準備に最適!

☆学習習慣をつけよう!

☆幼児さんも楽しくできる!

さらに中学生の間も公文式を続けてやれば、J教材からO教材まで高校課程の数学を予習していくことになる。一段も二段も高いところから中学の数学を見ることによって、学校の授業内容の理解が深まるとともに、高校入試に関しても特別の受験準備など一切なくてもすむようになる。高校に進んでからの学力の安定も保証される。先へ先への予習が大きな自信と余裕を生み、受験勉強などにわずらわされない有意義な過ごし方を可能にしてくれるのである。

断わっておくが、私は優秀な子どもだけを小学生のうちに方程式に進ませてやろうと言っているわけではない。むしろ、それほどできのよくない子どもをこそ、できるだけ早く方程式にまで進ませてやりたいと思う。

優秀な子どもは問題なく自分で進んでいってくれる。しかし、学力が遅れ気味の子どもは学校で習うことばかり追いかけていたのでは、いつまでたっても余裕をもって授業に臨むことはできない。いつも後からせき立てられるような圧迫感がつきまとう。

数学を制するのは、たとえて言えば戦国時代の戦さと同じだ。敵の大軍と戦わなければならないとき、少ない力で大軍に勝つにはどうするか。織田信長が今川義元の大軍を蹴らした桶狭間の合戦ではないが、要所で待ち伏せしてその一点に全武力を投入するしかない。学校で文章題をやっているから文章題を、体積をやっているから体積を、四捨五入をやっているから四捨五入をというのでは、永久に勝ち目はない。文章題ができないのなら、文章題で争うことをやめて、早く方程式という要所で待ち伏せることだ。

方程式が自由に使いこなせるようになると、学校の授業内容を一段高いところから眺めることができるようになる。そうなれば心理的な余裕も生まれ、「算数ができないのは自分の頭がよくないせいだ」といった妙なコンプレックスをもつこともなくなる。

小学生のうちに方程式まで進ませてやるのは、何よりも、その子のあとあとの学校生活をより有意義なものにしてやるためである。無理なく進めるものなら、いつまでも小学校の算数の世界にしばらくつけておく理由はなからう。長期的な見通しをもって子どもの将来を考えてやることこそ、親たる者の務めであると思う。

公文式創始者 公文公（くもんとおる）

感染症対策を徹底しています

- ・窓や入り口ドアを開放して換気
- ・座席数を減らしてゆったり学習
- ・アルコール消毒・ハンドソープ常備